

大人も子どもも手をあげて

竹原市立竹原小学校 三年 秦 悠風

「どうしてお母さんは手をあげないの。」

「お母さんは大人だからよ。」

「どうして大人は手をあげないの。」

わたしは、お母さんの答えをぎもんに思っていました。なぜなら、大人も手をあげた方がよいと思った事があるからです。

きよ年の冬、習い事の帰りに、お母さんとおうだん歩道をわたっていました。冬だったので、夕方なのにもうす暗くなっていました。T字がたの交差点にあるおうだん歩道でした。わたしたちがわたっていると、まだわたりきれてないのに、一台の車が右に曲がろうとわたしたちにむかって来ました。わたしたちはあわてて手をあげて、「まだわたっていますよ」とアピールをしました。車のライトでてらされてわたしたちの手が運でん手に見えたのだらうと思います。車はキュキーツと止まりました。すぐ近くまでせまっているようでこわかったです。そして、わたしたちがわたりきった後に走っていきました。

「びっくりしたね。」

「こわかったね。」

とわたしとお母さんは言いました。でも家にもどるまで心ぞうのドキドキはおさまりませんでした。わたしは、その時の事を思い出し、やはり大人も手をあげておうだん歩道をわたるべきだ、と思いました。

では、大人はどうして手をあげる人が少ないのかインターネットで調べてみました。いろいろな理由がありました。わたしが考えた一番の理由は、大人が手をあげておうだん歩道をわたる事がはずかしいと思っているのだと思います。わたしの周りでも高学年になるにつれて、手をあげる人がどんどん少なくなっています。手をあげるのはようち園生や「交通あんぜん教室」を受けたばかりのてい学年だけだというイメージがある

のだと思います。しかし、はずかしくても自分のいのちを守るのは、自分しかいません。手をあげる事は大切だと思います。

わたしは、この作文を書く事をきっかけにお母さんともう一度「おうだん歩道をわたる時」について話しあってみました。

「おうだん歩道では、青になれば車は止まってくれるはずだ。」

「大人だから運てん手に見えているはずだ。」

「はずだ、はずだ、と油だんしないでほしい。」

と、言いました。お母さんも、

「そうね。あのこわい事を思い出したわ。次はいっしょに手をあげるね。」

と書いてくれました。

これからも、しん号の前では、一時てい止、左右のかくにん、手をあげておうだんする事を守っていききたいです。

手をあげる事で「わたりたい車に止まってほしい気持ち」「まだわたっている事を気づいてほしい気持ち」をつたえようと思います。そして、高学年になってもてい学年の見本となるようにつづけていきます。